

2019年度 日本臨床歯科学会東京支部

東京 SJCD 第3回例会のご案内

寒さ厳しく春の芽吹きを待つ今日この頃、会員の皆様方いかがお過ごしでしょうか。今年度第東京 SJCD 第3回例会では、世界的にご活躍されている東京 SJCD 会長の大河雅之先生にご登壇いただくことになりました。本講演ではボンデッドセラミックレストレーション症例の診査、診断、治療方針決定までの流れについて、動画を交えながら詳しく説明していただきます。そして今回は特別に午後まで枠を拡大して、デジタルデンティストリーによる審美修復治療の最前線についてもご講演していただくことになりました。また2名のケースプレゼンテーションと3名のポスター発表も予定しております。会員の皆様方、奮ってご参加ください

日時 2020年3月1日(日) 10:00~17:30 受付開始 9:30

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1

- 教育講演 -

- ・大河 雅之 先生
MI Esthetic (審美修復治療の最前線)

- 一般講演 -

- ・杉山 達也 先生
変形性顎関節症の患者に対して咬合再構成を行った症例
- ・川原 淳 先生
顔貌の審美的改善を目的に咬合挙上を行なった症例

- ポスター発表 -

- ・河合 竜志 先生
- ・富施 博介 先生
- ・長谷川 幸生 先生

－ 教育講演 －

MI Esthetic（審美修復治療の最前線）

代官山アドレス歯科クリニック

大河 雅之

■略歴

- 1987年 東北歯科大学卒業（現：奥羽大学歯学部）
- 2001年 代官山アドレス歯科クリニック開院
- 2013年 奥羽大学歯学部同窓会本部学術部長
- 2019年 日本歯科大学生命歯学部補綴Ⅱ講座 非常勤講師

■所属

- 日本臨床歯科学会東京支部会長
- EAED(ヨーロッパ審美歯科学会)会員
- AMED(米国マイクロスコープ歯科学会前理事)
- 日本歯科審美学会認定医

■抄録

現在、審美修復治療はバイオミメティック(生体模倣)アプローチという考え方が浸透し、できるだけエナメル質と歯の構造を保存する接着修復が世界的に潮流となってきた。接着技術の進化とインプラントの登場の恩恵によりクラウンやブリッジ修復における従来型の保持形態、抵抗形態付与のためのアグレッシブな支台歯形成は、前歯のみならず臼歯においても、今やそれらの再治療時のみに用いられるべきである。つまり現段階では歯の硬組織と歯髄の臨床的な再生が困難である以上、治療侵襲は必要最小限にとどめ、残存する歯の構造と組織を温存し天然歯固有の優位性を最大限に生かすことにより生物学的、構造力学的、機能的、審美的特性を天然歯に近似させ再現させることが修復治療の目的となる。これこそがMI修復治療の正体なのである。また顔貌から抽出する治療計画立案(Facially Generated treatment planning)は審美修復治療には必須である。前歯を含む修復治療計画立案においては、審美のガイドラインが確立され、歯や歯列の診査の前に、顔貌や口唇と歯の関係の審美分析を行うことは必須となっている。

本講演では①MIを考慮した治療計画立案とボンデッドセラミックレストレーション(BCR)の中長期的予後についての考察。②BCRにおけるマイクロスコープの有効性。③臼歯のBCRの考え方とマテリアルセレクション。④最新のデジタルテクノロジーを応用したMIフルマウスリハビリテーション。⑤デジタルデンティストリーの診査、診断と治療方針決定への機器としての発展。など審美修復治療の最前線について臨床症例を用いてお話ししたい。

－ 一般講演 －

顔貌の審美的改善を目的に咬合挙上を行なった症例

川原歯科医院

川原 淳

■略歴

1993年 日本歯科大学卒業

同年 川原歯科医院勤務

1999年 カトウ矯正歯科クリニック勤務

■所属

日本臨床歯科学会東京支部会員

日本口腔インプラント学会（専門医）

日本矯正歯科学会会員

OJ（正会員）

日本メタルフリー歯科学会会員

■抄録

患者の要望は様々であるが、包括的な診査、診断からMIのコンセプトに基づいた審美と機能の両立を目指している。私は4年前、臼歯部に咬合の高い補綴物による不適切な咬合高径を、本来の元の高さに戻した症例を発表させて頂きました。今回は、審美的改善を主訴とした矯正治療の既往のある患者に対し、プロビジョナルの模索と再評価の結果、最終的に咬合高径の挙上を図った症例を報告し、ご批判、ご指導を頂きたいと思いません。

－ 一般講演 －

変形性顎関節症の患者に対して咬合再構成を行った症例

杉山 歯科医院

杉山 達也

■略歴

2009年 新潟大学歯学部 卒業

2010年 医療法人 社団 同仁会 ワタナベ歯科医院勤務

2013年 医療法人 社団 ノブデンタルオフィス診療所 勤務

2015年 医療法人 杉山歯科医院 勤務

■所属

日本臨床歯科学会東京支部会員

日本歯周病学会会員

KIM 会員

日本顎咬合学会会員

■抄録

患者は63歳、女性。患者は10年以上にわたり顎関節の痛みと開口障害に悩み、歯科医院の転医を繰り返していた。磁気共鳴画像診断により変形性の顎関節症と非復位性の円板転位と診断された。スタビライゼーションスプリントによって疼痛と開口障害は改善したが、大臼歯でのみ咬合接触し小臼歯より前方は開咬状態であったため咬合再構成が必要と判断された。長期間のプロビジョナルによって咬合の安定を図り、神経筋機構の調和が取れるように工夫して補綴物を製作した。最終補綴に移行して2年経っているが特に顎関節の症状は無く、良好に経過しているので症例報告させていただきます。

- ポスター発表 -

マイクロデブライドメントによる歯周初期治療の臨床的効果

けやき歯科クリニック

河合 竜志

■ 略歴

1994年 日本大学松戸歯学部卒業

1999年 日本大学大学院終了 博士号取得

2002年 日本大学松戸歯学部有床義歯学講座 非常勤講師

2003年 けやき歯科クリニック開設

■ 所属

日本臨床歯科学会東京支部会員

日本顕微鏡歯科学会認定医

日本臨床歯周病学会会員

日本歯周病学会会員

AMED 会員

■ 抄録

近年、マイクロスコープなどを使用した拡大視野下での精密歯科治療が普及し、歯内療法、歯周外科処置や補綴修復治療において、その治療成果が報告されております。しかし、歯周初期治療におけるマイクロスコープの有効性に関しては、過度な歯周組織の損傷を防ぎ、正確な処置が行えるなどと言った手技方法に関する報告が多く、臨床的な治療効果について不明な点が多い。今回、歯周初期治療におけるマイクロスコープの臨床的な治療成果について検討したので報告する。

- ポスター発表 -

顎関節疼痛を顎位を含めた咬合再構成により改善した症例

ライフデンタルクリニック

富施博介

■略歴

2001年 日本歯科大学卒業

2005年 東京 SJCD レギュラーコース受講

2007年 ライフデンタルクリニック開業

2008年 クワタカレッジ受講 現在に至る

■所属団体

日本臨床歯科学会東京支部理事

K2 副会長

■抄録

咀嚼時において左側顎関節の疼痛を長年感じつつ、左下のブリッジ再治療を何度も行っていた患者様の治療を行なった症例報告。主訴は左下と顎関節疼痛のみであったが、基礎資料を収集するにあたり、顎位の変位などが認められたため、咬合再構成の必要が診断された。矯正治療、インプラント治療、咬合再構築などフルマウスでの三次元的な機能回復を行なった症例を紹介したい。

- ポスター発表 -

Minimal Invasive Treatment Using Resin-bonded Fixed Partial Denture

はせがわ歯科医院
長谷川 幸生

■略歴

2004年 日本大学歯学部卒業 横浜市立大学医学部口腔外科 勤務

2007年 済生会 横浜市南部病院 歯科・口腔外科 勤務

2010年 医療法人社団 同仁会 ワタナベ歯科 勤務

2017年 はせがわ歯科医院 開設

■所属団体

日本臨床歯科学会東京支部会員

日本顕微鏡歯科医学会会員

■抄録

近年、マイクロスコープが普及し、より低侵襲な治療が可能となった。前歯部審美領域での単独欠損における歯冠修復は、インプラント補綴での修復を選択出来ない場合、補綴の選択肢はブリッジ補綴を選択せざるを得ない。このような単独欠損における補綴処置においては、接着性ブリッジを用いる事で、より低侵襲な治療が可能となる。今回、接着性ブリッジ用いで前歯部修復治療を行なったので、若干の考察を含め報告する。